

子育て学習講座【西条市】

～学校や地域とともに築く家庭教育～

◆活動の目的・理念

- 各年齢層の児童・生徒を持つ保護者のために、参観日や保護者会等の機会を利用し、子育てに関する講座を実施することにより、家庭教育の向上を図ることを目的とする。

活動拠点	-	講座・学習 会開催数	46 回	相談対応 件数	- 件	訪問活動	- 件
広報活動	3 回	連携・協力 団体・機関	小学校25校、中学校10校、各小中学校PTA				
チーム スタッフ	地域コーディネーター 元教職員	名	子育てサポーター・リーダー PTA役員	名	民生委員・児童委員 保健師	名	名
計 0 名	心理士・スクールカウンセラー	名	支援団体・NPO関係者	名	その他	名	名

取組の概要

<主な取組内容>

- 小学校での就学時健診等を活用した子育て学習講座
 - ・就学前の子どもを持つ親を対象とした講座
 - ・各小学校単位で実施
- 小学校での参観日等を活用した子育て学習講座
 - ・小学生の子どもを持つ親を対象とした講座
 - ・各小学校単位で実施
- 中学校での参観日等を活用した子育て学習講座
 - ・中学生の子どもを持つ親を対象とした講座
 - ・各中学校単位で実施



グループに分かれてワークショップ

保護者の感想

- ・困った子と感ずるのではなく、子どもが今困っている、その不安を取り除いていけるような親でありたいと感じた。(就学時「困った子は、困っている子」)
- ・食事は心の成長に直結するという話を聞き、食事や食事の時間を大切にしたいと思った。(就学時「今だからできる子育て」)
- ・子どもをすぐに叱ってはいけなと感じた。転ばない方法より起き上がる方法を一緒に考えたい。(参観日「大切なこと」)
- ・「親だって完璧でなくてもよい」、子供たちが話しやすい、そんな関係性が大事というお話から、子どもと向き合う中でもう少しゆったりした気持ちで見守っていこうと思った。(思春期「教育現場から学んだこと」)



小グループでの話し合い
他の保護者と話すことができ入学前に仲間づくりができる

<特色ある取組>

- グループワーク等の活用
グループで話し合いをしたり、保護者の感想を基に講師が話題を広げたりと講演内容に工夫があり、保護者も主体的に参加できたという実感が得られた。
(就学時「人間は食べたものでできている」)
- 講座開催時間の工夫
コロナウイルス感染症対策もあり、2校時と4校時に参観日を分散し、間の時間に講演会を実施した。その結果、保護者が参加しやすくなり、参加人数が増えた。
(参観日「子どもの多様な学びの必要性」)



メモに書いてもらった質問や意見に応える・・・誰もが講演に参加できたという実感が！

事業を実施して

【成果】

- 発達障がい児に対する具体的な支援方法の理解につながり、子育てにおける不安や疑問を解消することができた。
- 子育てに困ったとき、相談できる場所を伝えることができた。
- 入学までの親子関係の作り方や支援の仕方を理解してもらえることができた。

【課題】

- コロナ感染拡大防止のため体育館で講演を行ったが、講師と保護者の距離が大きくなり、講師がアイスブレイクを図ってみたがなかなか心理的距離を縮めることが難しいようだった。
- 配慮を要する児童への対応の話など、教職員と一緒に参加できないのが残念(就学時健診時)。